

評価シート 様式

取組名	白山眺望と花の「風景街道」美しき湯けむりのまちづくりプロジェクト		
実施団体名	加賀商工会議所	対象地域	石川県加賀市及び小松市
(代表団体名)		推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたととは判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	白山眺望と花の「風景街道」美しき湯けむりのまちづくりプロジェクト		
実施団体名	加賀商工会議所	対象地域	石川県加賀市及び小松市
(代表団体名)		推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 花壇づくりなどによる「風景街道」づくりを通して低迷する加賀温泉の活性化に繋げる取組であるが、市民参加の取組とすることにより取組体制が確立され、地域の取組のあり方の点で先導性・モデル性が認められる。さらには、当初想定した以上の住民の意識向上や、様々な地元関係者の連携が生まれており、相乗効果・波及効果が現れていると評価できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	①街道沿いに地域住民と協力して花壇を設けるといふ観光資源の強化、②観光コンシェルジュ育成、③マップ作成や観光HP立ち上げのPR活動を通じて交流人口の拡大を図るといふ点で地域活性化に寄与する取組であると評価できる。今後は、今年度確立された地域住民の取組体制を引き続き活用しつつ、以下の点に留意の上地方の元気再生事業を継続して取り組むことにより、本格展開が期待できるものである。
	本年度の取組の成果を活用し、コミュニティビジネスに繋げる等新たな展開を重点的に図るとともに、継続的な取組となるよう民間の事業ベースの取組も活用しつつ発掘した地域資源をエリアツーリズムの商品化に発展させたり、情報発信体制の強化を図るべきである。また、具体的な目標設定にあたっては、取組内容に応じて、より効果に直結した、検証が容易なものへの見直しを検討するべきである。